

## 船窪小屋 小屋開け手伝い山行報告

(山城) 北アルプス北部  
(コース) 七倉ダム～七倉岳～船窪小屋  
(日時) H28年6月28日(火)～6月30日(金)  
(参加者) CL広木愛子 SL寺崎眞理 鈴木憲二 鈴木愛子(記録)  
(山行タイム)

6/28(火) 千葉 13:00⇒中央道⇒安曇野IC⇒大町⇒七倉ダム 17:00 テント泊

6/29(水) 七倉ダム 5:00⇒天狗の庭 10:15 着 10:40 発⇒船窪小屋着 11:30

6/30(木) 船窪小屋 8:45 発⇒天狗の庭⇒七倉ダム 13:50 着⇒日帰り温泉(薬師の湯)⇒帰葉 20:30 頃

(山行報告)

○6/28(火) 曇り

移動日

七倉ダムの駐車場にテントをはる予定であった。夜、雨の心配があり、七倉山荘の軒下にテントを張らせてもらった。七倉山荘は未だ開けてなく、休み。テントを張り終えそうな時、山荘の関係者が来て、軒下にテントを張る事をお願いすると、「今日は良いですが、次からは、山荘に事前に許可を得てからにしてください」と言われた。これでテントが雨にぬれず、安心して眠れる。

明日は 3:30 起床、5:00 出発なので 20:30 には就寝した。

○6/29(水) 曇り後一時晴れ

七倉ダムを 5:00 出発。最初、急な苦しい登りが続いた。小屋までの間、道標が $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{6}{10}$  等と書いてあり、それに「もうすぐ急登終わり」「もうすぐお花畑」「ここから鼻つき八丁」等と書いてあり、励まされた。 $\frac{3}{10}$  から $\frac{4}{10}$  の間と、 $\frac{4}{10}$  から $\frac{5}{10}$  の間にオオヤマレンゲ(モクレン科)の花が咲いていた。気を付けて見ていないと見過ごしそうだが、Hさんが気づいて教えてくれた。真っ白な、ヤマシャクヤク位の大きさで、綺麗な花で、別名「天女の花」と言われている由。この花に会いたかったので、とても嬉しかった。



オオヤマレンゲ



チングルマ



イワカガミ

「鼻つき八丁」は急坂で、木の梯子の連続でできなかった。まさに「鼻つき八丁」であった。天狗の庭までの間、ゴゼンタチバナ、ギンリョウソウ、マイヅルソウ、イワカガミ、ツマトリソウ、アカモノ、イチヨウラン等々が咲いていて、元気をもらえた。

森林限界を過ぎ、天狗の庭に着くと、槍穂高、立山連峰等々が見えるそうであるが、ガスで見えなかった。残念。晴れていたら、360度の眺めで、ちょっと平らになっていて、気持ち良さそうな所であった。

そこを過ぎると、お花畑があり、雪も少し残っていた。チングルマ、イワカガミ、アオノツガザクラ、イチヨウラン、ミヤマダイコンソウ等々他名前の分からない花が沢山、今を盛りと咲いていて、まさに百花繚乱であった。

小屋の少し手前で、雷鳥の親子に会った。ひなが6羽もいて、まだ生まれて間もない感じで、小さなひなで、とても可愛らしくて気持ちが和み、癒された。しばらく見入ってしまった。

そこから少し歩くと、船窪小屋であった。小屋の前には沢山のコマクサが咲いていて、私達を迎えてくれた。



天狗の庭にて



雷鳥の親子

丁度小屋の方々が昼食時で、私達もカレーをご馳走になった。インスタントではないカレーライスがとても美味しかった。

その頃は少しガスが晴れ、立山連峰、剣岳、竜王岳、獅子岳、鬼岳、針ノ木岳が見えた。素晴らしい眺めに感動した。立山や竜王岳の山の斜面の雪とハイマツの緑のコントラストが素敵であった。槍穂高方面はガスで見えなかった。



小屋の前からの竜王岳と立山(右端)



小屋の前のコマクサ



水場近くのキヌガサソウ

少し休憩してから、早速、水くみのお手伝いをする。水場まで片道 20 分。水場の手前にキヌガサソウ、固定ロープのすぐ上部にシラネアオイが咲いていてとても綺麗であった。水場はすごい所であった。ロープにつかまって下り、ガレ場をトラバースした所にあった。ガレ場は急斜面で、岩、土がもろく、水の出ている所に行くのがとても怖い。ロープの固定してある所の直前に、看板があり、下記のように書いてあった。「水場は危険なので、暗くなってからは、行かないでください」と。

私達 4 人で 120 の水と明日の自分たちの飲み水の分の水を担ぎ上げた。こんなに危険な所から往復 40 分をかけて水を運んで、料理をしてくださる小屋のスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいになった。

夕食は小屋のスタッフの方々の腕を振るった心のこもった船窪小屋ならではのメニューであった。とてもとても美味しく、全てたいらげ、完食の私であった。

メニューは全て手作り。ご飯（白馬コシヒカリと古代米を合わせて炊いたもので赤飯のような感じ）、味噌汁（人参、大根など他具たくさん）、天ぷら（ナス、南瓜、ピーマン、アザミ、山ニンジン）、酢の物（きゅうり、玉ねぎ、長芋、人参、きくらげ、トマト）、煮物（しみ大根、昆布、高野豆腐、椎茸、くるま麩、人参、ダケワラビ）豆腐（手作りのふき味噌そえ）、生春巻き（マッシュポテト、春雨、きくらげコーン、玉ねぎ、シーチキン）、ワラビの辛み麴和え、デザート（ルバームのあま煮）

長年、色々な山小屋に泊まったが、こんなに品数を使って心のこもった食事は、船窪小屋が初めてである。



船窪小屋の夕食



天狗の庭からの槍ヶ岳

19 時からお茶会があった。小屋のオーナーであるお父さん、お母さん、スタッフの方、ボランティアで手伝いに来ている方々、テレビ局の人と、山の話に花が咲き、楽しいひとときであった。

テレビ局の人が船窪小屋の取材に来ていて、長野朝日放送だと 7 月に放送予定の由だが、関東地方は BS 朝日で 12 月放送予定との事であった。（お茶会は取材外）

#### ○6/30（木）雨後曇り後時々晴れ

私達は下山前に、もう一度水くみを手伝ってから下山予定であったが、雨が降っていたので、止めにする。でも、下山の支度をして、下ろうとしたら雨が止んだ。またすぐ降ってくるだろうと思い、カッパを着て出る。小屋を後にする時は、お母さん、お父さん、スタッフの皆さんがいつまでも手をふって見送ってくれた。

天狗の庭でカッパを脱ぐ。昨日は見えなかった槍ヶ岳、立山連峰、剣岳等々が見え、嬉しかった。往路を辿り、七倉ダム着 13:50。

○この山行を終えて

梅雨の時期なのに、登りの時も、下りの時も雨がふらなくてラッキーであった。

2016年版の昭文社の地図の船窪小屋までの登りの時間は6時間、可愛い花たちの写真をたくさん撮り、天狗の庭では25分も休憩し、最初の急坂、鼻つき八丁の登りはとても厳しかったのに、私達は休憩の時間を入れて、6時間半で船窪小屋に着けたこと、下りも、地図の時間プラス休憩1時間で歩けた事が嬉しかった。

船窪小屋は電気がない。明かりはランプである。囲炉裏を囲んで、みんなで食事をしたり、お茶会をする。オーナーであるお父さん、お母さん、スタッフの方、皆が優しくてアットホームである。心が安らぎ元気をもらえる小屋である。

Hさんに借りて読んだオーナーの松澤寿子さん著書の「私は山の上のお母さん」を読んで感じたことだが、オーナー夫妻はいつも登山者の事を思ってくれている。登山者が歩きやすいようにと、ボランティアの方と登山道の整備に心を尽くしてくれている。登山者の疲れている体を思っの心のこもった食事作りを考えてくれている。船窪小屋を訪れて、私も、船窪小屋の大ファンになった。ぜひまた訪れたい山小屋の一つである。

1936年生まれのお母さん、今年も七倉尾根を歩いて、小屋入りしたそうである。凄いと思う。とてもその年とは思えない。お父さんは体調があまり良くない様で今年は、ヘリコプターでの小屋入りだったそうである。

お二人がいつまでもお元気で船窪小屋を守ってくださいますように。

近年、商業主義に走る山小屋が多い中で、山小屋らしい小屋で、一人ひとりの登山者を大切に、暖かく迎えてくれる山小屋でした。



小屋のオーナーのお母さん（松澤寿子さん）と